

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 ---)

事業所番号	0671900231		
法人名	社会福祉法人 南陽恵和会		
事業所名	こぶし荘認知症高齢者グループホーム		
所在地	山形県南陽市川樋508番地		
自己評価作成日	平成27年 2月18日	開設年月日	平成14年 3月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

恵まれた自然環境のもとで四季折々の暮らしを楽しまれています。また、併設の特養や地域の皆さんの連携を頂きながら、のんびりし和気あいあいと安心して過ごして頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、恵まれた自然環境の中に、法人の他の高齢者サービス施設と一体的に設置されてから14年になり、理念を大切に、安定的に支援活動が行われている。特に、児童館・小中学校・公民館をはじめ地域の方々との様々な交流の中で、継続的に生活が営まれてる。また、設立法人の医療機関や各種福祉施設等との連携の中で、利用者が安心して生活できる医療福祉環境がつけられている。利用者の高齢化により介護度も上がってきているが、職員の理念の理解と支援活動経験の積み重ねもあり、「四季折々」、「のんびりと和気あいあいとした自立的な生活」が営まれている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)  
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・インワン		
所在地	山形市桜町四丁目3-10		
訪問調査日	平成 26年 3月 16日	評価結果決定日	平成 27年 3月 25日

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の主体性を大切にしたい関わりを第一に掲げている。また、可能な限り地域の行事に参加することを目標としている。	法人の理念を基に、地域密着型事業所としての基本的な役割を踏まえ、「地域・家族との交流の中で」、「自主的な生活を営めるよう支援する」という事業所目標を掲げ、全員会議で確認し共有し合いながら実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	様々な地域の行事、催し等に参加しながら交流の機会を持っている。また、法人全体でも多様な面で地域の方々との協力体制が整っている。	地域との交流は、様々な分野で数多く行われている。中川地区の夏祭りや公民館主催の文化祭に参加するとともに、事業所を含む敷地全体の夏祭りに地域の方々を招待している。また、小中学校行事に参加するとともに、児童館・小中学校生徒の訪問や地域団体等のカラオケや踊りのボランティアの訪問を受けたりしている。防災訓練も、地域防災会の協力で、消防団や多くの地区住民の参加を得て行われている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭りでは、模擬店や踊り、花火など地域の方々をご案内して一緒に楽しんでいる。また、法人全体が様々な地域の窓口となっている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の生活の様子について話し合いをしているが、サービス内容に満足していただけているかの判断にも役立っている。	2か月に1回、市職員・民生委員・家族代表・利用者代表と施設長等職員とで開催している。事業所から、入居者状況・行事予定・地域交流・家族交流・感染症対策・研修等について詳しい報告をした後に意見交換をしている。交換では、例えば浴室やトイレの手すりの増設など、忌憚のない話し合いが行われ、これをサービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険に関してや生活保護受給者への支援など、関わりのある市担当職員と協働して取り組んでいる。	市職員から運営推進会議に毎回出席していただくほか、介護認定や生活保護受給者の手続き等で市の職員と情報・意見交換を行うことにより、担当課と密接な協力関係を築いている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>法人として委員会を設置して随時、検討を行っている。危険度を考慮しながら、なるべく拘束のないよう取り組んでいる。</p>	<p>法人主催の研修会や所内の話し合いで、職員の理解を促進している。また、法人が設置している身体拘束防止委員会は随時開催し、拘束をしない支援の在り方を検討している。例えば、夜間にベッドから転落の恐れがある利用者や帰宅願望のある利用者等についても、職員の知恵を出し合いながら、より適切な方法を探し対応している。職員も身体拘束の具体的な行為やその弊害をよく理解し、拘束をしないケアに心掛けている。</p>
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている</p>	<p>法人として委員会を設置して随時、検討を行っている。会議や職場内研修会等で、随時説明の場がある。</p>	
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>実際に制度上、後見人として関わられている事例があり、都度学ぶ機会になっている。</p>	
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の前には、実際にホームを内覧して頂いたり、細やかな説明に努めている。解約時は、その後の生活に不安の無いよう整ってから行うようにしており、利用者、家族の意向を大切にしている。</p>	
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>窓口、およびその担当職員を明示しており、サービス利用開始時に家族等に説明している。また、玄関ポーチに掲示。</p>	<p>運営推進会議に利用者・家族代表が参加している。また、利用者の希望は日頃の会話から、家族の希望は、面会や利用料持参、行事参加や定期受診結果報告の電話等の際に、必ず尋ねるようにしている。玄関に意見箱を設置するとともに、苦情担当者とその連絡先を大きく掲示している。</p>
11		<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>常に資質向上を念頭に掲げ、ホームの状況把握にも熱心である。職場内研修会等、人材育成にも積極的である。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人一人に合った時間や条件の配慮がなされている。自主性を重んじ、職員間での協力と調整力は上手く機能している。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会への参加と職場内研修会の開催。また、個々に対話する時間を確保している。	法人全体の研修、事業所内全体会議での職場研修及び外部派遣研修で、認知症等必要な知識技術の習得を推進している。職員間の年齢・経験の差による知識技能のレベルの均一化など課題もあり、それらに対応するため、管理者は研修のあり方について計画的に進めたい意向である。	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	認知症高齢者に関わる研修や老協研修等。	母体法人が関連する医療法人の事業所との交流を行ったり、行政や高齢者関係団体の会議や研修会に職員を参加させながら、同業者とのネットワークづくりを行い、サービスの向上に活かしている。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	特にコミュニケーションを多くとりながら、早く馴染んで頂けるよう関わっている。家族にも当初は特に多めの関わりをお願いしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	場所と時間を設定し、対話出来る機会を大切にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始までに事業所側として行うべきこと、対応すべきニーズを整理して伝えた承を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	管理者は「もう一つの自分の家」という感覚である。利用者も職員もお互い「もう一つの家」だったり「家族」だったりそんな状況や場面がある。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の負担を軽減することは重要だが、決してゼロにすることではないと考える。本人にとって家族は永遠であり、入所後もその絆はかけがえのないものとしてご理解頂いている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	多くのことを家族から教えて頂いている。職員も家族も本人を主体に考えることを最重要としている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	馴染みの関係がここでも存在しており、輪の中に職員が入って更に輪を丸く大きくすることや、見守ることを大切にしている。			
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現状ではないが、必要に応じて対応できる。過去では退所後に必要な情報提供や面会等。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や習慣、趣味等、環境が変わってもそれを最大限継続できるよう考えている。また、日頃の関わりから可能性を見出したり、得意分野での役割やどう暮らしたいかを大切にしている。	利用開始前に、生活歴や習慣等について、独自の様式で聞き取りを行うとともに、利用後は、利用者の日頃の何げない会話やしぐさから意向を汲み取るようにしている。また、家族からは、面会や電話等の際に、必ず希望・意向を把握するようにしている。また、それらを職員の「連絡ノート」に書き込み、全員が閲覧し共有できるようにしている。さらに今後、詳細な把握について取り組むべく、センター方式アセスメントを試行中である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	多くのことを家族から教えて頂いている。職員も家族も本人を主体に考えることを最重要としている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴や習慣、趣味等、環境が変わってもそれを最大限継続できるよう考えている。また、日頃の関わりから可能性を見出したり、得意分野での役割やどう暮らしたいかを大切にしており、本人、家族、職員等様々な対話から把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	教えて頂いたものを大切にしながら作成している。	3か月毎にモニタリングを行うとともに、必要な場合は随時、特に変化がなければ6か月毎に介護計画を見直している。計画に当たっては予め実施した本人・家族の希望・意向を踏まえサービス担当者会議を行い、職員間でアイデアを出し合いながら、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員ノート、ケース記録の活用。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化(小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	児童館や学校、公民館などに出向き交流を図っている。防災等に関わる訓練や会議、多様な地域との協力体制で支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医の協力により細やかな相談や指導を受けられる体制がある。</p>	<p>本人・家族の意向に沿ったかかりつけ医とし、受診時は職員や家族が付添っている。受診に当たっては、近況報告書等を持参するとともに、受診結果は「医療連絡ノート」に記載し、家族にも報告し、情報の共有を図っている。その他、希望者は法人設立医療機関から定期的に診察を受けている。</p>		
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ病院の看護師や荘看護師との医療連携により、アドバイスを受けながら、安心な医療面の提供が支援できる。</p>			
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>家族とともに医療機関と連携をとり、情報交換や可能な限りの支援を行っている。</p>			
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>家族とともに医療機関と連携をとり、情報交換や可能な限りの支援を行っている。</p>	<p>利用開始時に、事業所で出来ることを本人・家族に詳しく説明するとともに、法人の看取り重度化委員会において、状態に応じた支援のあり方を検討している。過去においては、要望を踏まえ、医療や福祉関係者全体の協力の下で、終末期まで支援した例もある。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>法人で行う訓練参加、(救護、ノロ対応、AEDなど)。講習会への参加。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
35	(13)	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練、防災協会を中心にした協力体制づくり。ホットライン体制等。	年に2回、敷地内全体の施設・事業所が消防署・消防団や地域防災協会の協力を得て総合訓練を行い、消火・避難・放水訓練などを行っている。昨年は運営推進会議の意見などを踏まえ、土砂災害を想定し、学校に避難する訓練も実施した。法人全体で備蓄も行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の目標として掲げており重要視している。記録等も管理場所を決めている。	本年の年間重要目標として、利用者を人生の先輩として尊敬し、丁寧に対応し、プライバシーを守ることを実践している。特に入浴や排泄介助の際などは注意している。尊厳を守るケアのスキルアップについては、認知症研修に派遣したり、伝達研修を行ったり、また、管理者がリードしながら具体例を中心にして話し合ったりしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	対話やそれ以外のコミュニケーション、一緒に過ごす時間、いつも近くに誰かがいることを大切にしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大切にしている。起床、食事や入浴等できる限り意に添っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類や美用品は家族に協力を得て、その人らしさ(好み)を大切にしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も一緒に食事をしている。入居者の状態に合わせて援助しやすい位置に職員が座り全体を把握している。	3食とも職員の献立・手作りで、家庭的な雰囲気が漂う食事である。また、季節折々に行事食を用意したり、誕生会の御馳走があったり、おやつに笹巻やかき氷を作って楽しんだり、季節を感じながら作る楽しみを取り入れている。さらには、出来る仕事を分担したりしながら、利用者と職員が協力して食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立が重ならないよう、栄養が偏らないよう工夫している。また、栄養士の協力を得てカロリー計算する他、献立についてもアドバイスをもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯管理と合わせて洗面時と就寝前に口腔ケアを行っている。また、日中帯も状態に合わせて支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者一人一人の排泄状況を記録し、排泄パターンを把握した援助を行っている。オムツ、パット使用者もできる限りのトイレ排泄を援助している。	利用者の排泄記録を基に、一人ひとりの誘導のあり方を全員で話し合いながら、トイレで、便器に座って排泄できるように支援している。高齢化しているが、オムツやパットの使用や数量の改善に努めている。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師に相談しながら本人の状態に合わせた対応を考慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	一人一人に合った希望やタイミングまた、必要性を重視しながら、それに応じた入浴の援助を行っている。	利用者の希望を聞きながら、週に2回は個室で入浴するよう支援している。運営推進会議の意見などを踏まえて浴場の手すりを増設したが、さらに機能低下があった場合には、廊下で接続している施設の機械浴の使用も可能である。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	一人一人の生活習慣を把握しており、日中でも休息の時間を確保している。			
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	バイタルチェックほか、症状の変化等は全員分記録され、医師への報告にも役立っている。			
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	職員からの誘いも重要だが、それぞれの得意分野を把握して関わることをしている。			
49	(18)	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	地域交流、バスハイク、定期受診ほか、家族との外出だが、重度化により頻度が少なくなっている。	事業所の広い敷地を散歩したり小農園で野菜づくりを愉しんだり、日常的に外気に触れることが可能である。また、地域行事への参加、バスハイク、菊・バラまつりの見学、定期受診等で日常的に外出し地域の方々と触れ合えるように支援している。家族の協力で盆・暮れの帰宅、法事出席などもできている。		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	本人や家族の希望をふまえて、支援をしている。管理が困難な場合は、出納を明らかにしている。			
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	電話で家族と会話していただく事や、携帯電話の持込による対話の援助。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木目調のものが多い建物の内部は、とても落ち着いている。ホールでの家事や趣味活動、お茶等、のんびりとした時間が流れている。居間でテレビを観ながら対話、団欒している場面もみられる。	玄関から続く居間は、明るく、広く、畳敷き和室も有る。壁面には利用者の書道作品や手作りの折り紙等の飾りものが掛かり、温かい雰囲気が感じられる。その中、窓外を眺めたり、テーブルを囲みながら談笑したり、和室のソファでテレビを見たりと、思い思いの生活が営まれ、笑い声も聞こえ、ゆったりと居心地が良く過ごすことができる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールはテーブルを3台設置。隣には居間もあり、自由な空間で過ごしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた生活用品や、装飾品等、居室のレイアウトは、家族にもお願いしている。	居室はそれぞれの好みで洋風にしたり、畳敷きで和風にしたりしている。そこに馴染みのテレビや家具、小仏壇を持ち込んだり、また、思い出の写真や飾り物を置きながら、慣れ親しんだ雰囲気の中で生活している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活歴や習慣、趣味等環境が変わってもそれを最大限継続できるように考えている。また、日頃の関わりから可能性を見出したり、得意分野での役割やどう暮らしたいか(個性)を大切にしている。			